

## 金子校区まちづくり懇談会 開催結果報告書

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 開催日時  | 令和2年7月31日(金) 19時～21時 |
| 場所    | 地域交流センター             |
| 司会・進行 | 藤田金子校区連合自治会 前副会長     |
| 参加者数  | 男41人 女8人 合計49人       |



### 1. 市の重点事業に関する質問

#### 【質疑応答】

Q. あかがねポイントについて、以前あった健康づくり事業ポイント制度が新しいあかがねポイントへ移行したと聞いている。平形自治会では20名以上が加入していたが、貯まった1000ポイントの内、500は小学校へ寄附していた。あかがねポイントではそれが使えない、寄附できないと聞いたので全員やめることになった。これまでの健康づくりでポイントを貯めて寄附ができるという3点が良かったと思うので、歩くポイントは継続してほしい。

A-1. 健康づくり、環境、ボランティアなど別にあったポイント事業を統合してあかがねポイントとしたので、継続できる制度となっているが、説明が不十分だった点もある。

A-2. 今までの制度で一部見直した事業もあるので、あかがねができたことで、歩くとポイントが付く事業は現在は無い。他は継続できることとなっている。寄附についてはしくみづくりを検討していく。

A-3. これまでのポイント事業の内容を継続できるものは今後検討させていただく。

Q. 重点事業の若宮小学校やスマートシティに関連して、施政方針について、人口減少への取り組みをお聞きする。新居浜に限らず全国的に東京以外は少子化などで人口減少問題

がある。新居浜でも若い人の働く場所の創出を企業と連携して行うことがまず大事だが、もう一方で若者にとって魅力あるまちづくり、市の中心となる施設づくりが必要。そのため、ここ数年では「あかがねミュージアム」、「防災施設整備」のような大型プロジェクトがあったが、これらは文化の発信、総合防災拠点として大変有意義な施設。このようなプロジェクトを今後も長期間で継続していただきたい。文化センターやスポーツ施設、駅南の整備など川西地区へ集中すると思うので、住友企業の福利厚生施設などとの連携も考え、川西地区の特性を活用した計画になると思う。市と市民が一体となって考えられる将来像を発信してスマートシティ化を進めてほしい。

A. 人口減少については、第1期総合戦略での5年間の取り組み結果では、下げ幅を抑えることができた。第2期では経済再生に取り組んだので、ここ最近の有効求人倍率は2倍となっている。ただ、2点目の若者の魅力あるまちづくりができていないかは問題である。そのためには施設整備が必要で、文化やスポーツ振興、心の豊かさが実感できるまちをつくっていかねばならないと思っている。スポーツ練習場は国領川河川敷があるが、公式戦はサッカー場だけしかない。また、体育館と一体型のアリーナ施設などいろいろなご意見や議論がある。今年度は第六次長期総合計画を作成中のため、耐用年数が残り少ない文化センターについて今後の整備方針、また、建設場所に関しては駅南の整備方針も含めて議論いただき、今年度中には方向性を見出して第六次長期総合計画で示していきたいと考えている。

## **2. 校区課題**

### **課題① 非自治会員のごみステーション使用について**

#### **(北庄内自治会)**

非自治会員は、自治会の承諾なしでは自治会ごみステーションを使用できない事の明確化が、市内あげて必要と考える。前の地区ではできていたのに、この地区ではできないという事が北庄内では多いと思う。2つ目は、自治会への加入メリットが無いと言われるが、何か良い案がないか。最後に、夏場になりカラスや猫の被害が多く、ごみステーション付近の住民から苦情が多いので、毎朝掃除をして巡回している状況。市で何か良い対策がないか、お聞きしたい。

#### **(市民環境部長)**

ごみステーションに係る問題点については、市連合自治会と市で、ごみステーション問題についてのワーキンググループを設置し問題解決に向けて協議を行っている。ごみステーションに未分別のごみが出されて収集されないことや、非自治会員のごみ出しなどについては、ワーキンググループでの重要な協議課題として検討している。課題内容によっては市が対応策を検討すべきことや、ごみステーションを管理している自治会との協力が不可欠なことがあり、それらを整理しながら協議を進めている。今年度立ち上げて5、6月で2回開催し、これまでのまちづくり校区懇談会での様々な意見を整理して問題を構造化

する中で、具体的な取り組みや課題解決に向けて、問題点の整理ができた段階。今後は、現在自治会を通じて実施中のアンケート調査結果もふまえて連合自治会とともに解決策の検討を進めていきたいので、しばらく時間をいただきたい。

カラスのごみは、あらかじめネットをかぶせておけばカラスもいたずらしにくいですが、ネットに入れることを守れない人がいる状況。今後対策を具体的に考えていきたい。

また、非自治会員が自治会加入のメリットがないという件は、コミュニティの話になるのでごみとは切り離したいと考えている。具体的に地域コミュニティを考える際には、できるだけ全体のつながりということで、自治会員、非会員の間に壁をつくらない取り組み、政策を広げたいと考えている。ごみステーションに関すると、非会員にはステーションを使わせないとすると地域全体のコミュニケーションのつながりをなくし自治会員、非会員に壁ができてしまう。行政としては、どうすれば利用させてあげられるか？という視点に切り替えて考えていただきたいと思っている。捨てる場所がないとごみ難民が発生し、その後は市内の不法投棄や清掃センターへの持込み等の問題が循環するということもある。今後も連合自治会と知恵を出し合って考えていきたいのでご理解をお願いしたい。

#### (質問者)

非会員、自治会員を分けるわけではないが、非会員の方がごみを正しく出していない場合が多いので、自治会の人困っている。非会員も捨てるのは良いと思うが、正しく出していない人たちに徹底していただきたいというのが皆さんの意見だと思う。

#### (須山連合自治会長)

結論を出す時期に来ていると思う。2つ問題があり、一つは会員と非会員との不公平感。会員は自治会費を払って、ごみステーションを清掃管理している。もう一つは、文化の問題として市民のうち例えば9割は正しいが、一部の人が自治会員、非会員ともに守っていない。市内全体のモラルとして「これを守らなければ市民として恥ずかしい」という文化を作らないといけないと思う。そして、ごみ袋の有料化を考えてほしい。市のごみ袋を決めてそれ以外は使ってはいけないとして自治会員には無料、非会員は有料とすることで不公平感をなくすと両方一気に解決すると思っている。ごみを捨てに行く時に、市の袋以外を使っていると注意できるし、恥ずかしいということになる。市民全員を無償と有料の袋に分けることで、時間かかるが解決していくと考えている。結論は出ないと思うが参考にしてほしい。

#### (平形自治会)

関連して、カラスへの対策はネットに入れておけば大丈夫ということだが、2羽いると1羽がネットをあげてもう1羽が下から入って取る。これはネットに重しをつけておくとある程度防げると思う。生ごみを新聞紙に包んで出すとカラスから見えないので来ない。市で周知してもらえれば多少は防げると思う。

**(市民環境部長)**

非自治会員が未分別のごみを出すことによって困っているということについて、分別できないのは必ずしも非会員ではないことはご理解いただきたいが、可能性として単身者、ルールを知らない賃貸者、転入者、若者、外国人という方々が分別に対する理解が低いという懸念はあるので、どういう制度を設ければよいか検討する。例えば、賃貸の方は自治会のステーションでなく賃貸住宅の中で管理してもらうのもひとつの方法と考える。それらも含めて議論していきたい。また、不公平感を担保すべきではないか、恥の文化の考え方としてごみ袋の有料化を実施し、自治会員には無償で配布するというご提案があった。

ごみ有料化については、昨年10月に廃棄物減量等推進審議会から答申があり、答申を受けて清掃センターの持込みごみの有料化について現在検討している。ごみ袋有料化も有効な手法だと考えており、長期的にはありうるかと思うが、行政サービスとしては非会員と会員とを区別してサービスするのは難しい。不公平感をどのようにして無くすかという点は、自治会員が会費を払ってステーションの清掃管理を行っている不公平感があるので、非会員の方にも役割分担を求めていくことで不公平感を無くすのも方法ではないかなど、今後検討していきたい。

3点目のカラスのネットに関するご提案として、生ごみは新聞紙に包んで出すと影響が少ないという案など、持ち帰って検討した上で広報していきたいと考えている。

**(質問者)**

そろそろ結論出す時期だと思うので、時期はずれこむとは思いますが何をいつまでにするという目標をはっきり出してほしい。

**(市民環境部長)**

連合自治会とのワーキンググループにより検討しているので、いつまでにという設定はなかなか難しいが、できる限り今年度早い時期に結論を出せるよう取り組みたいと考えているのでご理解をお願いしたい。

**(司会)** 年内の早い時期にみんなが納得のいく結論を出していただくことをお願いしたい。

**課題② 豪雨浸水対策について**

**2-1 久保田地区浸水対策（久保田自治会）**

以前から金子地区（久保田、一宮、江口）の豪雨対策として色々取り組みをされているが、現状どのように改善され今後の計画がどうなるのかが不透明で、過去の冠水で被害にあった住民は依然不安の中で生活を送っている。

① 一宮町（市役所通り冠水・一宮町内冠水）の水害対策のため平成26～29年宮西ポンプ場、商工会議所南ポンプ場の設置をして頂いているが、久保田・一宮では依然冠水の報告があり、久保田ポンプ場の排水能力が貧弱・東川増水時の樋門からの水の逆流等の原因が考えられる。水は上流から下流に流れる事を考えれば、いくら下流の一宮で止水しても上

流での対応が出来なければ意味がないと考える。このため、久保田ポンプ場の排水量 UP と樋門に新設ポンプ場の設置を検討いただきたい。

② 久保田雨水幹線の状況をご教示いただきたい。雨水バイパスができれば①の件が解決する事となるが、調査及び実際の工事が長期に及ぶのであれば、優先的に①を進めていただき、昨今の異常な豪雨への対策を進めて欲しい。

## 2-2 一宮地区浸水対策（一宮自治会）

一宮地区は大雨が降ると平和通り（一宮神社前から西高入口まで）や金子生協前の通りが直ぐに冠水するという状況が続いていた。その対策として平成 26～29 年にかけて宮西ポンプ場への雨水渠の整備および一宮ポンプ場の新設などの対策が進められ、浸水状況は順次改善してきたと実感している。しかし平成 30 年 9 月の大雨では、まだ一部冠水箇所が見られるなど完全に解消された状況には至っていない。昨年度も改善に向けた管渠の延伸など対策を講じていただいたとお聞きしているが、今までに取られた個別対策とその効果をしっかり検証し、今後も継続的な改善に取り組んでいただきたい。また、近年降雨量は年々増加する傾向にあると思われる。降雨量と雨水処理能力のバランスについて長期的・根本的な見通しと対策も伺いたい。

## 2-3 東川整備計画（江口自治会）

金子校区を流れる東川は、平成 16 年 9 月台風 21 号で流木災害による河川氾濫を起こし、金子校区久保田、一宮、江口地区の広域にわたり浸水被害をもたらした。また近年も、平成 27、29、30 年の台風・豪雨時に道路冠水、床下浸水等の被害を被った地域があった。金子地区で考えられる東川洪水氾濫による危険要因は三つ考えられる。

①東川の水位が上昇しての氾濫、②東川の堤防が決壊しての氾濫、③支流合流点・用水路合流点での逆流による用水路水域の洪水。このような懸念事項に対し、市として今度どのような対策・方策を講じていこうとしているのか、具体的に教えていただきたい。

### （上下水道局長）

久保田排水ポンプ場及び一宮排水ポンプ場は、久保田町、一宮町の台風等大雨時の雨水排水を目的に設置しているが、排水先である東川が未改修という状況から、ポンプ場の排水能力については、河川管理者から許可をいただけた東川の現状に見合う能力のものとなっている。したがって、現状では当該地区の抜本的な雨水排水施設である久保田雨水幹線の整備はもとより、ご提案のあった既存ポンプ場の能力アップや新たなポンプ場の建設も困難な状況。当面は、既設ポンプ場の稼働状況とポンプ稼働時の周辺水路の水位の状況、大雨時の東川と久保田水門の水位関係などを調査しながら、既存施設に関して他の改善方策がないか検討していく。なお、東川の整備に関しては、昨年度から愛媛県が東川水系河川整備基本方針の策定に着手し、東川の改修に向けて国との協議等を進めていただいております。市としても県と協議を継続していく。

次に、一宮地区の雨水排水は、久保田雨水幹線を整備し東川へ放流する計画となってい

る。現在の東川の状況では、久保田雨水幹線の整備は困難なため、当面、暫定的な措置として、東川の現状能力の範囲内で河川管理者に許可をいただき、宮西、一宮、久保田の3排水ポンプにより強制排水を行っている状況。ご指摘のとおり、平成30年9月の大雨の際に、一部箇所で見受けられたことから、その後、各排水ポンプの稼働状況を検証したところ、一宮排水ポンプにやや稼働が下がっている時間帯があったことが判明したため、ポンプ場への雨水の取り込みを改善するよう、令和元年度に一宮町二丁目のプラチナガーデン前に雨水施設の整備を行った。今後は、降雨時に各排水ポンプ場の運転状況の確認を行い、排水ポンプ場の能力が十分発揮されるよう周辺排水路等の検討していく。

なお、降雨量と雨水処理能力のバランスについての見通しについては、新居浜市公共下水道の雨水排水計画に用いている確率年は、国の指針により10年確率(降雨強度53mm/h)での計画となっている。ご指摘のとおり、近年はゲリラ豪雨等数十年に一度の雨という報道を頻繁に耳にされることと思いますが、今のところは国等から雨水計画に関する見直し等について指導等はない。今後、指導等があれば対応できるよう検討していく。

次に、東川の河川改修については、昨年度から県が「東川水系河川整備基本方針」の策定に着手している。東予地方局建設部河川港湾課が担当で、河川断面の現地測量を実施し、降雨状況や被災履歴など収集したデータを元に河川整備の基本的事項をとりまとめ、今年度から四国地方整備局と協議を進めている。今後も整備局と協議を重ね、県の専門委員会に諮り早期に河川整備基本方針を策定していくと伺っている。この河川整備基本方針が策定されると、次に具体的な整備内容を示す「河川整備計画」の素案を作るが、この段階で「流域懇談会」が開催されるので、地元自治会からご意見やご要望などを伺いたいのでご協力をお願いしたい。

次に、久保田水門の操作は、通常時は常時「開」の状態で開催しているが、大雨時には、東川の水位と排水路の水位、周辺の状況等を確認しながら判断をしているが、最近の気象状況は、想定を超えるような事象も起こりうる状況なので、今後はなお一層、現場状況の確認に努め、適切な樋門管理に努めるとともに、東川周辺の対策工事の効果確認や各ポンプ場の稼働状況の検証を行い、改善箇所がないか検討していく。また、先ほどのとおり当該地区の雨水対策には、排水先となる東川の改修が必須となるので、計画策定の推進が第一。久保田雨水幹線の整備については、東川の改修が完了しなければ整備できないが、東川の河川整備基本方針が策定され、今後の改修計画の方向性が示されれば、既設ポンプ場の能力の増強等暫定的な対策については、河川管理者と協議できるのではないかと考えるので、まずは河川整備基本方針の策定に向けて県と連携・協力していく。

(司会) 前述の問題点が解決すればスムーズに流れるとか、宮西橋が狭くなりすぎているということは同意できることなのか。

(上下水道局長)

基本的に県が立てる計画の中でのことになる。河川で大事なものは川の広さ、勾配によっ

て水の流れが決まる。この区域は勾配がゆるやかなため河積の問題になるが、下に掘り下げることができれば良いが、海に近いので横に広げることになるので、堤防だけで済むかどうかという問題が生じる。

(司会) 宮西橋から下のポンプ場まで別ルートで、というのもできないか

(江口自治会)

とにかく今後も現地をよく調査、確認してほしい。私も現地を何度も確認して河川の特異性もわかった。市もすぐに回答できるとは思っていない。樋門を閉めると水位が上がって、河川氾濫につながる。現状の開いている状態では、逆流で一宮、久保田に迷惑がかかることになるのが実態。それをわかっただけで検討をお願いしたい。現地を見ていただき一番は周辺住民、現場の人の意見もよく聞かないといけない。

(一宮自治会)

降雨量と雨水処理能力について、国補助のため基準を変えるのは難しいとのことだが、防災の先取り、予防の観点からすると、リスクが見える化することが大事。国領川は 1000 年に一度の雨量を想定してハザードマップを作った。主要河川はあるが、全国的に中小河川についてはリスクが見える化されていない。河川改良がすぐにできないのは分かるので、このくらいの雨量でどうなるのか、ハザードマップを作ってリスクが見える化してほしい。リスクを把握してそれに対する姿勢、取り組みを示してほしい。これは要望だ。

(質問者)

東川付近の家だが、土地の形状で少しの大雨でも床下浸水になることもある。おとしの台風時に床下寸前となった時、近所には障がいの方や高齢者もいるので消防へ通報したら待ってほしいということだったが、1 時間待っても来なかった。結局、近所の人と協力して避難できたが、あとで聞いたら河川の警戒対応で消防には電話番が 1 人しかいなかったとの事だった。どこへ連絡したら対応してくれたのか、市全体で対応を考えてほしい。

(上下水道局長)

その際にご迷惑をおかけして申し訳ない。今年度から防災センターが開設して防災関係課所も集約されたので、市民の方からの通報があってもスムーズに対応できるよう電話回線も増やし体制整えている。今後は防災センターへご一報願いたい。

### **課題名③ 単位自治会の防災について**

(平形自治会)

近年の災害は全国どこにでも発生し、災害の規模が大きくなるのが現状。平形町は国領川沿いにあり、常に水害の危機にさらされている。①平形自治会会員が約 200 世帯、総世帯数は約 250 世帯、高齢者が多いため遠方の避難所利用が難しいので、今期自治会館を避難所に指定手続きを行った。②避難所の防災に関する設備が脆弱であり、当面の避難所としての利用に危惧する所。③自治会年間予算約 85 万円では、防災器具等の整備(発電器具・

トイレの整備・当面の食事・救助用器具、及びそれらを入れる倉庫の設置)が難しい状況。  
④整備費用等の補助金を希望する。⑤平形自治会では、自主防災組織結成から5年経過しており、今期見直しを行い会員全員に周知徹底する計画。

**(危機管理統括部長)**

自治会等の地域の皆様が自主的に運営していただけることを条件として、届出された自治会館等の施設を自主的避難場所として受理している。現在、防災用品は、市でまとめて備蓄していたものを平成27年度から令和2年度までの6年間で保存用のビスケット等の食料品、液体・粉ミルク、飲料水、おむつなどを指定避難所となる市内小中学校に分散して備蓄を進めている。また、防災資機材についても公民館・地域交流センターに整備している段階のため、自主的避難場所への個別の補助は現時点では難しい状況だが、校区で話し合っただき、既に小中学校や地域交流センターに備蓄している物資を分散しての備蓄は可能なので、ご検討をお願いしたい。

**(須山連合自治会長)**

公募審査の補助金を活用して平形自治会、地域交流センターでも防災倉庫を設置し設備や資機材等を整備した。審査員の一人から、今は市の制度がないので今回は防災倉庫の予算を通すが、これは自治会でやるべきではなく市が計画を立てて整備するべきだ、と言われた。指定避難所でもなくても基本的には市で予算確保できるよう長期でも計画してほしい。

**(危機管理統括部長)**

避難所がどういう災害を想定するかということだが、もし巨大地震がきてかなりの人が避難する時に、全ての避難所を開設し運営となると様々な問題が出る。避難箇所が多いと食事の配布に時間がかかるなども想定される。現在は自主避難所も届出があれば認めているが、地区の状況に応じて綿密に調査して決定しているわけではない状況。今後どのくらいの避難所が必要なのか、どういう運営を行えるか総合的に考えた上で、指定避難所プラスアルファの整備を考えていく必要がある。今後検討したい。

**(平形自治会)**

備蓄品はあるので、設備の整備についてである。避難所として平形自治会は耐震の建物ではあるが、停電時の対応など設備が不十分。少しずつでも整備をお願いしたい。

**(危機管理統括部長)** 今後検討させていただきたい。

**(司会)** 主に発電機や倉庫などについて検討をお願いしたい。

**課題④ 避難所運営とコロナウイルス感染症防止対策**

本日予定していた(4) 避難所運営とコロナウイルス感染症防止対策については、時間の都合で文書回答をお願いしたい。



※ 再検討事項 … なし

**【市長まとめ】**

- ◎ごみについては結論を出さなければいけない時期とのご指摘もあり、連合自治会でワーキンググループの議論をしていただいているので、早期に結論を出していき、できることから実施していきたい。
- ◎東川の浸水対策については、ポンプを設置しただけでは解決していない状況。久保田雨水幹線が完成しなければ解決とならないと思うが、東川が未改修ということで、整備基本方針、計画策定で約10年かかる見通しとなり、すぐには解決できないが、台風時は金子橋や金栄橋も心配な状況。河川改修について愛媛県へも要望しているが、整備計画を作成しないとできないとの事。県費単独で対応できないかについても要望している状況。災害は待てないので、今後も県と交渉を継続していく。久保田雨水幹線整備は早期に整備するのが根本的解決だと思っている。今現在できることに取り組んでいく。
- ◎災害時の消防の対応については誠に申し訳なかった。今年度防災センターを設置して体制を整えているので、そういう場合は一報いただきたい。
- ◎自主避難所の機器設備の整備については、基本は指定避難所があるが、高齢者の多い地域などで自主避難所の要望が認められている。指定避難所の整備をまず行うことを基本として進めているので、自主避難まで行き届いていないのが現状。本来は市が整備すべきことだが、今後もまずは指定避難所の整備を計画的に進めていきたいと考えている。